2．調査団の活動経緯と内容

1．地震発生から新潟大学調査団結成まで

10 月 23 日（土）夜　地震発生を受けて災害研，理学部，工学部の有志教員が連絡を取り合い，10 月 24 日の緊急調査の目的・場所などを協議.

10 月 24 日（日）　把握しているだけで 7 グループ＋工学部建築グループが緊急調査を実施．夜にそれぞれの結果を持ちより，翌日の調査について協議する．調査団としてのメーリングリスト（ML）, ホームページ（HP）立ち上げ準備．夜にそれぞれの結果を持ちより，翌日の調査について協議（仮第 1 回調査団会議）.

10 月 25 日（月）　引続き多数のグループに分かれて調査実施．夜：調査団第 2 回会議：調査団としての ML, HP 立ち上げ決定．HP の内容について検討．これまでの調査結果を報告し，今後の進め方を協議する．調査団名称（中越地震新潟大学調査団），組織（団長：災害研センター長　高浜信行，事務局長：理学部教授　宮下純夫）を決定.

10 月 26 日（火）：新潟大学自然系全教員に調査団の紹介と参加呼びかけ．引続き多数のグループに分かれて調査実施．夜に調査団第 3 回会議：これまでの調査報告と今後の進め方，メーリングリストによる情報共有と HP による情報発信などについて協議．これ以降は調査団 ML と HP を通じた運営，活動へと移行した.

2．その後の経過

調査団活動は調査団 ML と HP を通じて報告・発信された．事務局からの ML への発信は 70 回，ML への調査予定･結果報告や中間まとめ，情報提供などは 925 通（2005 年 7 月 25 日現在）に達している.

3．中間報告会（2004 年 11 月 11 日）

調査団中間報告会を積雪地域災害研究センターにて開催．10 件の報告がなされた.

4．外部への報告活動

1）新潟大学調査団報告会（2005 年 1 月 29 日）
2）新潟大学公開講座『2004 年新潟県中越地震の現場から』：コーディネーター栗田裕司，新潟大学駅南キャンパスＣＬＬＩＣ（2005 年 6 月 10 日～ 7 月 1 日）
3）新潟大学学術資料展示館　企画展示「新潟県連続災害の現場から」2005 年 3 月～ 10 月末日

5．調査団の調査概要

災害研（＋理学部）
・卜部・高浜ほか：地盤災害や液状化など
・丸井・渡部ほか：斜面災害など
・河島・和泉ほか：積雪関連の問題
・内藤・墓石被害調査グループ：広域的震動分布の把握
理学部・自然研
・小林・豊島ほか：地震動による断層・変位など
・立石ほか（東大地震研との共同）：物理探査による地下構造解析
・山岸・卯田ほか：斜面災害など
・久保田：地盤と被災状況
工学部
・大川・保坂：盛土や斜面を含む土木構造物の被害状況
・加藤・土井・中村ほか：建物被害と地震動との関連
・牧野：地理情報システムによる震災データベース
農学部・自然研

・川辺・権田・中野ほか：山地・農地の地すべり、崩壊と営農への影響
・稲葉ほか：農地の液状化など
・有田：農村コミュニティと震災
・阿部：人工衛星画像解析による被害の解析
・早川：降雪・融雪情報
教育人間科学部
・世取山ほか：小中などの教育現場と震災

6．新潟大学の対応
・新潟大学 HP のトップページに中越地震の項を設置．調査団 HP へリンク．
・地震に関する学長のコメント発表．
・学長裁量経費からの予算措置
・新潟県連続災害の検証と復興への視点　シンポジウムを 2 回にわたって開催．第一回は調査団報告会を兼ねる・第 2 回は 2005 年 3 月 5 日に新潟市民プラザにて開催．調査団は被害報告をポスターにて行った．
・新潟大学復興科学センターを発足させ，1，産業政策分野，農業分野，，地域産業分野，情報通信分野，ここのろケア分野，ボランティア分野，災害法学分野，防災分野，生活セイフティネット分野，危機管理分野の 10 分野をおいて活動を開始している．

7．研究・解析用図面，地図の提供
以下の機関・会社から受け，調査団の調査・研究に役立てられた．
・国土地理院：災害対策用地図，崩壊解析図など
・（株）パスコ：地滑り・崩壊解析図
・（株）国際航業：空撮オルソ図

8．調査団構成と組織
調査団長　高濱信行　積雪地域災害研究センター長
事務局長　宮下純夫　理学部
事務局次長　豊島剛志　大学院自然科学研究科
WEB 管理者　志村俊昭　理学部

調査団構成員（下記の教職員以外に多数の院生，学生も参加）
積雪地域災害研究センター：青山清道，和泉　薫，伊豫部勉，卜部厚志，片岡香子，河島克久，本郷美佐緒，丸井英明，渡部直喜
大学院自然科学研究科：稲葉一成，加々美寛雄，小林健太
理学部：赤井純治，栗田裕司，周藤賢治，高澤栄一，田澤純一，立石雅昭，新川　公，松岡　篤，卯田　強，久保田喜裕，山岸宏光
工学部：大川秀雄，保坂吉則，神立秀明，岩佐明彦，加藤大介，寺尾　仁．土井希祐，中村友紀子，南部正樹，西村伸也，牧野秀夫
農学部：粟生田忠雄，阿部信行，有田博之，川邊　洋，権田　豊，早川嘉一，福山利範，中野俊郎，中村　昇
教育人間科学部：黒川勝己，藤林紀枝，世取山洋介

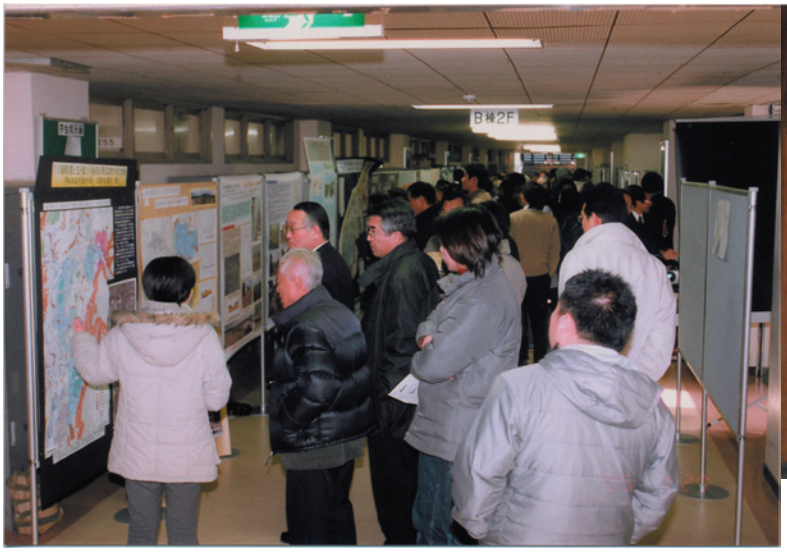
新潟大学調査団報告会（2005 年 1 月 29 日）



開始に当たって犠牲者への黙祷を行いました



広い会場を多数の参加者が埋め，立ち見も出るほどでした



講演会の会場前では 14 件のポスター展示，テレビによる映像紹介などが行われました



報告をおこなう講演者

新潟大学と本調査団とが主催して，「新潟県連続災害の検証と復興への視点　第 1 回 7．1 3 豪雨災害と中越地震の総合的検証」と題したシンポジウムを 1 月 29 日に開催しました．本シンポジウムは，連携して調査を進めた 10 を越える学会との共催という形で行われました．このシンポジウムには 500 名を越える参加があり，立ち見が出るほどの盛況でした．参加者は新潟大学教職員や学生のみならず，多くの新潟市民や被災した地域の市民，新潟県や市町村自治体関係者，防災コンサルタント関係者など多岐にわたり，今回の連続災害への高い関心を示す場となりました．

当日の講演プログラムとポスター発表は，次頁に示してあります．

新潟県連続災害の検証と復興への視点
第１回　７．１３豪雨災害と中越地震の総合的検証

主催：新潟大学・中越地震新潟大学調査団

共催　・日本応用地質学会・日本建築学会北陸支部新潟支所・（社）砂防学会・（社）日本地震学会・（社）日本地すべり学会・（社）地盤工学会・日本雪工学会・（社）日本雪氷学会・地学団体研究会・日本地質学会・地理情報システム学会　　（50 音順）

開催日時：2005 年 1 月 29 日（土）午前 10 時 30 分～午後 4 時 30 分
場所：新潟大学五十嵐キャンパス　総合教育研究棟　Ｅ - ２６０講義室

プログラム：開会（午前 10 時 30 分）

総合司会：近藤総務部長
＜学長挨拶＞　長谷川　彰　学長

＜第１部＞「７．１３豪雨災害はなぜ起きたか」（午前 10 時 30 分～ 12 時）

司会：河島克久（積雪地域災害研究センター）
黙祷
講演：
１）７．１３豪雨災害の特徴と教訓　　大熊　孝（工学部）
２）豪雨災害調査団の組織と活動経過　　高濱信行（積雪地域災害研究センター）
３）農業被害・土砂と泥水の下でコシヒカリは・・　　福山利範（農学部）
４）質問および討論

＜第２部＞「中越地震の被害の検証」（午後 1 時～ 4 時 30 分）

司会：豊島剛志（大学院自然科学研究科）
黙祷
講演：
１）2004 年新潟県中越地震新潟大学調査団の活動概要と教訓　　宮下純夫（理学部，調査団事務局長）
２）中越地震の特徴と地質学的背景　　小林健太・豊島剛志（大学院自然科学研究科）
３）中越地震による地盤災害の特徴　　卜部厚志，高濱信行，片岡香子，本郷美佐緒，鈴木幸治（積雪地域災害研究センター）
４）建築構造物の被害状況　　中村友紀子・加藤大介・土井希祐（工学部）
５）土木構造物の被害状況　　大川秀雄・保坂吉則（工学部）
６）中越地震で発生した斜面災害　　丸井英明・渡部直喜（積雪地域災害研究センター）・山岸宏光（理学部）・川邉　洋・権田　豊（農学部）
７）農地の液状化被害とその対策について　　中野俊郎（農学部）・稲葉一成（大学院自然科学研究科）
８）中越地震にともなう雪氷災害　　河島克久･和泉薫･青山清道･伊豫部勉（積雪地域災害研究センター）･早川嘉一（農学部）
９）被災地からの歴史資料救済活動の現状と課題　　矢田俊文（人文学部, 人文学部地域文化連携センター副センター長）
１０）質問および総合討論
コメント：国連防災世界会議に参加して　　山岸宏光（理学部）

ポスター講演

P-1）７．１３豪雨災害と刈谷田川・五十嵐川周辺の失われた地形　　平松由紀子・卯田　強（理学部）
P-2）７．１３新潟豪雨による三条市の水害　　地学団体研究会新潟支部水害調査グループ
P-3）７．１３新潟豪雨災害による浸水被害　　新潟大学調査団・浸水調査グループ
P-4）７．１３新潟豪雨に伴う斜面災害について　　新潟大学積雪地域災害研究センター・（社）日本地すべり学会合同調査団
P-5）新潟平野～信濃川構造帯の活断層と地震　　卯田　強・平松由紀子・東　慎治（理学部）
P-6）構造地質学的にみた中越地震の地表変状　　豊島剛志・小林健太（大学院自然科学研究科）
P-7）墓石転倒調査による異常震動帯の推定　　内藤信明・丹尾貴志・高濱信行・地学団体研究会新潟支部中越地震調査団・新潟大学理学部地質科学科
P-8）長岡周辺地域の地震災害と地形・地盤との関係について　地学団体研究会新潟支部中越地震調査団
P-9）柏崎・刈羽地域の地震被害．とくに，荒浜砂丘縁辺部の液状化及び埋立て地の地盤災害　　地学団体研究会新潟支部中越地震調査団
P-10）新潟県中越地震　見附市街地における地盤と建物被害の関係　　斉藤浩之･坂東和郎･浦山智晴（株式会社興和）
P-11）新潟県中越地震による山地災害　　権田　豊・川邉　洋（農学部）・丸井英明・渡部直喜（積雪地域災害研究センター）
P-12）被災家屋写真と各種申請書類（罹災証明など）のデータベース化と時空間 GIS による復興支援（川口町，十日町市での復興支援）　　地理情報システム学会防災分科会・内藤信明（新潟大学大学院自然科学研究科）・牧野秀夫（新潟大学工学部）・角本繁，山田博幸（防災科学技術研究所）・中島美由紀・増田真吉（三重大学）・大阪産業大学・秋田県立大学・秋田高専
P-13）復興ＧＩＳ：山古志村ハイビジョン空撮データと除雪作業への応用の可能性について　　牧野秀夫（新潟大学工学部）・NTT データコミュニティプロデュース・ダイアモンドエアサービス・NTT データ・宇宙航空研究開発機構・情報通信研究機構・アジア防災センター
P-14）山古志地区の積雪・融雪情報　　早川嘉一（農学部）